

住民福祉活動計画 (第1次)

(マキノ・今津・朽木・安曇川・高島・新旭)

計画期間：平成22年度～平成26年度

高島市地域福祉推進計画 (第1次)

しるくのふくし
プラン 愛称

計画期間：平成22年度～平成26年度

平成22年(2010年)3月

高島市地域福祉推進計画策定委員会

社会福祉法人 高島市社会福祉協議会 

はじめに

風光明媚な景観を数多有する高島市は、癒しの里として多くの人を魅了していますが、この地で暮らす私たちは少しずつ生きづらさや暮らしにくさを感じているのではないのでしょうか。広大な地に200有余の集落が点在する高島市の少子高齢化は確実に進行し、中山間地域から徐々に押し寄せる集落維持機能の低下は、かつては繁華街であった街中にさえ及び、お互い様で支えあってきた古き良き時代が失われつつあるのではないかと危惧しています。経済発展に伴う社会構造の歪みは、人間関係の希薄化、相互扶助の弱体化を生み、孤独死、虐待等の問題を顕在化させ、それらは決して都市部だけの問題ではなくなってきました。

これらの問題を解決するための様々な公的な施策の充実を図っていくことも大切ですが、それだけでは埋められない福祉課題や生活課題を公民協働で解決していく「地域福祉の仕組み」を作り上げていくことが、今後益々重要になります。

この1年間、誰もが住みなれた高島市で、自分らしく安心した生活を送りたいという願いの実現に向けて、各地域の住民の皆様が自らの知恵と力、そして思いを共有するお仲間と共に創り上げられた『住民福祉活動計画』と、市全体の地域福祉推進の方向性を民間の立場から示し、また住民福祉活動を後押しするための『地域福祉推進計画』が、この度完成致しました。

地域福祉推進計画では、「あたたかなつながりを実感できる、みんなが主役のまちづくり」を地域福祉目標として、4つの推進目標と14の活動項目、50の活動事業を打ち出すことができました。今後5年間の計画として、これらの事業を柱に地域住民の皆様と共に地域福祉を推進してまいる所存です。

結びになりましたが、本計画策定に熱意を持ってご参画いただいた委員の皆様と、終始あたたかい眼差しを失わずご指導いただいた神戸学院大学の藤井博志先生に改めて深甚の敬意を表し、深謝申し上げる次第です。

平成22年3月

社会福祉法人 高島市社会福祉協議会
会 長 横 井 貞 夫

あいさつ

高島市社会福祉協議会会長より本計画の諮問を受けたこの1年間は本当に良い経験をさせていただきました。

第一の経験は、これまで、そして今後、高島市の地域福祉を進める多くの素晴らしい市民、事業者、行政等の関係者に出会えたことです。地域福祉は固定的なものではなく、地域生活課題の対応と暮らしの理想に向かって市民、事業者、行政が常に協働して変革していく福祉のあり方を理想とします。そして、その変革する自発的な主体を多く生み出していくことが重要です。本計画の策定は、策定過程を通じて多くの地域福祉人材が会う場となったと思います。

第二の経験は、合併後の地域福祉推進の理念とカタチを示せたことです。また、既に市地域福祉計画が策定されていましたが、それをより実体化させる計画ができたことと自負しています。本計画は福祉推進委員会の強化、6地域の住民福祉協議会づくり、地域ケア会議を補完する地域生活支援会議の開催など、地域福祉の理念をカタチにする多数の提案がされています。本計画は、それらの提案を通じて、合併後の高島市の地方自治を市民側、地域福祉の側から強化する実質的な行動計画として示すことができたと思います。

第三の経験は、優秀な社会福祉協議会職員の方たちと出会えたことです。民間計画としての地域福祉推進計画は計画策定過程そのものが地域福祉の協議、協働の場づくりとして重要な実践として捉えています。その意味では計画策定過程のなかで、さまざまな取り組みが生まれてくるのが理想とされています。今回の計画では、6地域の住民福祉活動計画づくりなどがそれにあたります。市民の方たちのそれらの取り組みを見事に支えた社会福祉協議会職員の専門性は、今後の高島市の地域福祉推進にとって不可欠な専門性といえるでしょう。



また、社会福祉協議会の在宅福祉事業においては、「地域生活支援」という「介護」ではなく介護を含めた「暮らしを支える」という理念を再確認したことも、市内の他の事業者や市民活動と協働できる共通基盤としての方向性を示していただいたと思います。

今後、社会福祉協議会の役員の皆様が中核となり、本計画に携わっていただいた多くの関係者とともに高島市の地域福祉を前進させていただくことを祈念いたします。

平成22年3月

高島市地域福祉推進計画策定委員会

委員長 藤井 博志

もくじ

住民福祉活動計画/高島市地域福祉推進計画

はじめに	高島市社会福祉協議会 会長 横井貞夫
あいさつ	高島市地域福祉推進計画策定委員会 委員長 藤井博志
もくじ	

第1章 住民福祉活動計画・地域福祉推進計画の策定にあたって

1-1	計画づくりの背景	1
1-2	計画の目的	2
1-3	計画の位置づけ	3
1-4	計画の期間と進行管理の方法	4
1-5	計画づくりの体制	5
1-6	計画づくりの流れ	8
1-7	社会福祉協議会とは	10
1-8	高島市の基本データ	12

第2章 住民福祉活動計画

2-1	マキノ住民福祉活動計画	17
2-2	今津住民福祉活動計画	23
2-3	朽木住民福祉活動計画	29
2-4	安曇川住民福祉活動計画	35
2-5	高島住民福祉活動計画	41
2-6	新旭住民福祉活動計画	47

第3章 みなさんの声

3-1	プロジェクト提言	53
3-2	計画づくりから生まれたつながり	63

第4章 高島市地域福祉推進計画

4-1	地域福祉目標（地域福祉のビジョン）	67
4-2	スローガン	67
4-3	計画の愛称	67
4-4	計画づくりに向けた基本的視点	68
4-5	地域福祉推進計画 総合体系図	69
	地域福祉推進計画 推進イメージ図	70
(1)	推進目標1 小地域福祉活動ネットワーク	71
(2)	推進目標2 住民福祉ネットワーク	75
(3)	推進目標3 地域ケアネットワーク	84
(4)	推進目標4 地域福祉推進ネットワーク	91

第5章 高島市社会福祉協議会が目指すもの

5-1	高島市社協の理念・行動規範	99
5-2	高島市社協の組織体制	100
5-3	高島市社協が実施する事業の現状と課題	
	今後の取り組み方針	104
(1)	地域支援事業	105
(2)	相談支援事業	114
(3)	在宅介護事業	119
(4)	法人運営	130

資料集

(1)	住民福祉活動計画・地域福祉推進計画 計画づくりの経緯	137
(2)	住民福祉ネットワーク会議設置要綱	142
(3)	高島市地域福祉推進計画策定委員会設置要綱	144
(4)	マキノ住民福祉ネットワーク会議 委員名簿	146
(5)	今津住民福祉ネットワーク会議 委員名簿	147
(6)	朽木住民福祉ネットワーク会議 委員名簿	148
(7)	安曇川住民福祉ネットワーク会議 委員名簿	149
(8)	高島住民福祉ネットワーク会議 委員名簿	150
(9)	新旭住民福祉ネットワーク会議 委員名簿	151
(10)	プロジェクト 元気が出る！ふれあいいきいきサロン研究会 名簿	152
(11)	プロジェクト 福祉教育実践研究会 名簿	152
(12)	プロジェクト ボランティアセンター運営委員会名簿	153
(13)	高島市地域福祉推進計画 策定委員会 委員名簿	154
(14)	事務局（高島市社会福祉協議会）	155
(15)	用語解説	156

●障がいの表記について

「障害者」の表記における「害」という漢字のひらがな表記については、さまざまな意見がありますが、「害」という漢字のイメージの悪さから、「障がい者」と表す自治体などが増加しています。また、「障害者」を使うことを求める意見もあります。

高島市社会福祉協議会（社協）では以前より、広報誌等で法律・制度名（障害者自立支援法など）や固有の施設・機関の名称、医学上の名称等を除いて、原則「障がい者、障がいのある方」という表記を採用しています。今後も表記方法については、障がいのある当事者の皆様のご意見を伺いながら最善の表記法を検討してまいります。また、表記のみに留まらず、障がいの有無に関わらず、誰もが安心して暮らせる排除や差別のない地域づくりを住民、当事者の皆様と共に推進してまいります。